

バリアフリー調査報告

北陸学院大学
宮村一咲花

ニュージーランド オークランド
2月16日～2月28日

今月実施できた活動

物理的側面に着目して、公共交通機関、公共・教育・観光施設、商業施設を調査した。

公共交通機関

【バス】



①要望があれば対応する旨が明確に表示されている。



②手前には車椅子・ベビーカーのスペースが明確に確保されている。



③時刻表は、時刻・行き先が電子表示でわかりやすく、下のボタンを押せば音声案内が流れる。

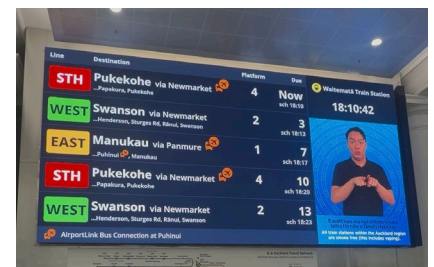
【駅】



①真ん中がアクセシブル専用の改札



②左側のカウンターの高さが低めに設置されている



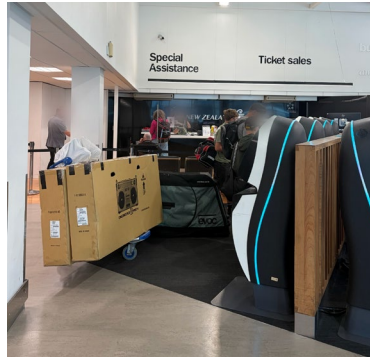
③時刻表には手話の案内もある

公共交通機関

【空港】



①たくさんの車椅子の用意がされている

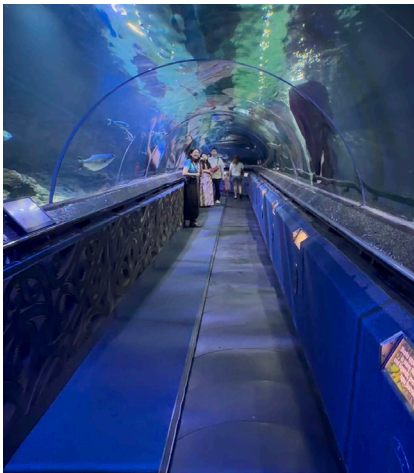


②Special Assistanceの対応カウンター



③低めに設計されている手荷物引き渡しベルトコンベア

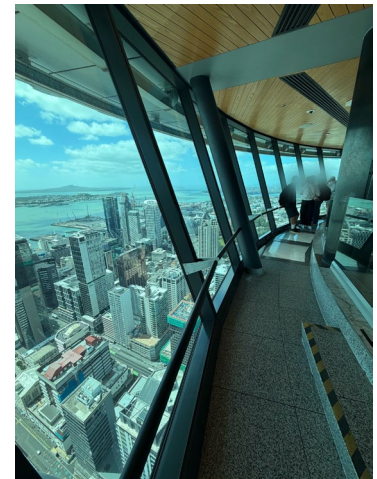
観光施設



①ベルトコンベアで進む通路



②机が低めのワークスペース



③窓際に設置されている手すり



④アクセシブルトイレも混合したトイレ
(スカイタワーも同様)



⑤入口からスロープになっている通路



⑥左側には車椅子昇降機がある

商業施設

【ショッピングモール】



①車椅子の人も利用しやすい高さのテーブル



②多数の多目的駐車スペースの確保



③お店の入口には車椅子の表示がある



④アクセシブルルートも用意されているマクドナルドの入口



⑤カウンターの中央部分が低くなっている



⑥店舗の中にエレベーターがある (H&M)



⑦車椅子も十分に入る広めの試着室 (H&M)



⑧車椅子昇降機があるスーパーマーケットの入り口